



真宗高田派本山 専修寺

高田本山だより

令和8年 秋号

147



高田本山 HP

令和8年 秋号（第147号）／発行・令和8年9月1日／〒514-0114 三重県津市一身田町2819番地 TEL 059-232-4171 www.senjuji.or.jp



第百回仏教文化講座を終えて

宗務総長 栗原廣海

このたび、第百回を迎えた仏教文化講座を、「堯猷上人と近代仏教学の展開」をテーマに開催いたしました。

初日には、法主殿より「堯猷上人の生涯と事蹟」と題して御親講を賜り、記念すべき節目にふさわしい開講となりました。

期間中は、例年をはるかに上回る多くの皆さまにご聴講いただき、盛会のうちに全日程を終えることができました。

百回の歩みを重ねることができましたのも、長年にわたり講座を支えてくださった多くの方々のお力添えによるものです。

先人から受け継いだ教学と文化を大切にしつつ、時代に応じて仏教の智慧と真宗の教えを広く社会へ伝えていく。その使命をあらためて胸に刻み、次の百年へ向け、新たな決意をもって歩みを進めてまいります。

開講百周年の節目を迎えて

―第一〇〇回専修寺仏教文化講座―



大変暑い中、法主殿、法嗣殿のご臨席を仰ぎ、県内外から約524名という多くの聴講者を迎え、記念すべき第百回仏教文化講座が開催されました。

大正十五年（一九二六）に始まった本講座は、本年でちょうど百年の節目を刻みます。五日間にわたり、学教両界の第一線で活躍される先生方による示唆に富んだ講義が行われ、教団の歴史、仏教の根幹、西洋近代との出会いなど、多彩な視野から「学び」の重要性が再認識されました。

■第一日…法主殿御親講 「ぎようゆう堯猷上人の生涯と事蹟」

初日は法主殿による御親講が行われ、本講座の創始者である常磐井堯猷上人の生涯と、そのご兄弟（近衛篤麿、津軽英麿）の事蹟が紐解かれました。上人は近衛家

本家で手厚く養育され、明治十八

年に専修寺に正式に入寺。念願のドイツ留学ではロイマン教授に師事し、サンスクリット語研究に励まれて哲学博士号を取得されました。大正二年に法主に就任された上人は、大正十四年に本講座の規定を裁可し、翌年から開講されました。法主殿は、三兄弟を支えた人々を挙げられ、「三兄弟が我々に遺してくれたものは、人の恩の深さ、重さ、尊さであったに違いない」と深く結ばれました。

■第二日…斎藤明先生

「観音と観自在 堯猷上人による開講百年を記念して」

二日目は、国際仏教学大学院大学特任教授、東京大学名誉教授・斎藤明先生が「観音（観自在）」のルーツを探りました。サンスクリット原語に照らすと、適切な訳語は「観自在（世間を観察する仏）」であり、その起源は悲心により世間を観察した仏陀の「世間観察」にあると説明されました。一方で、言葉の響きの美しさや、「苦しい時に法を説くことこそが救いの原点であり、その結果として様々な救いがある」という本質を強調され、鳩摩羅什の思想家としての翻訳と、玄奘の学術的アプローチの対比を分かりやすく解説されました。

■第三日…野村亨先生

「東南アジア仏教の諸相
上座部仏教と密教」

三日目は、慶應義塾大学名誉教授（総合政策学部）、関西外国語大学国際文化研究所元所長・野村亨先生が登壇されました。本山（堯猷上人）と野村家の深い歴史のご関係に触れた後、「イン

ド哲学と仏教」の対比が語られました。インド哲学の最高峰（ウパニシャッド）の「永遠不変（梵我一如）」に対し、仏教は「永遠不変なるものは無い（無常・無我）」と説く根本概念を分かりやすく明示。さらに「いろは歌」から仏教のエッセンスを読み解き、お釈迦さま入滅後の部派分裂、そして東南アジアへ伝播した南方上座部仏教や大乘仏教、密教の展開を概説されました。

■第四日…碧海寿広先生

「西洋の仏教との出会い
高楠順次郎と常磐井堯猷」

四日目は、武蔵野大学教授・碧海寿広先生が近代における仏教の変遷を講じられました。廃仏毀釈の危機を経て、西洋の近代仏教学（文献学的・客観的・合理主義的アプローチ）が日本に逆輸入され、「人間釈尊」理解が普及・定着したプロセスを解説。常磐井堯猷上人と高楠順次郎が、西洋的な学術を修得しつつも、東洋的（アニミズム等）精神性や伝統的信仰との



常磐井慈祥法主殿

相克の中でいかに葛藤し、独自の現代的仏教観を重層的に確立していったかという、近代仏教の軌跡が詳しく紹介されました。

■ 第五日・栗原 廣海先生

「仏教文化講座 一〇〇年の歴史と今後の展望」

最終日は、真宗高田派鑑学、高田短期大学名誉教授・栗原廣海先生が百年の歩みを振り返られました。寛文十二年（一六七二）に始まった「安居^{あんこ}」から「勸学堂」の建立、そして大正十五年の「仏教文化講座」制定までの詳細な変遷を紹介。他宗派には類を見ない「ご法主自らによる御親講」が聴講者にとっていかに



野村 亨先生



斎藤 明先生

喜びであつたかを語り、開講式訓示に込められた学問への真摯な姿勢を偲ばれました。実証的学問と信仰の葛藤という、今なお通じる課題に向き合い、教えを受け継ぐために「たゆまない学びの姿勢」が不可欠であると説かれました。

■ おわりに――

次なる百年への一步



栗原 廣海先生



碧海 寿広先生

本年も素晴らしい各分野の講義を縁とし、本講座が果たすべき公的な役割を再認識するとともに、自らの今後の歩みに多くの貴い示唆をいただきました。

来年は第百一回となり、百年という歴史を背景とした新たな一歩が始まります。さらなる学びの可能性に期待を膨らませ、歩みを進めてまいりましょう。

御本山御用達

鍵長法衣仏具店

京都市下京区油小路正面東入（中央局区内）
電話 (075) 371-0854・8181～2番
FAX (075) 344-2701番
振替口座・0170-3-972番 郵便番号600-8344

創業1586年



松井建設株式会社

代表取締役社長 松井角平
執行役員支店長 小沢一彰

本 社 東京都中央区新川一丁目17番22号 ☎03-3553-1150
名古屋支店 名古屋市中区栄五丁目28番12号 ☎052-249-4771

全ては如来様のお手回しの中であつた



生死の苦海ほとりなし
久しくしずめるわれらをば
弥陀の悲願のふねのみぞ
のせてかならずわたしける

なんまんだぶつ なんまんだぶつ

この龍樹菩薩のご和讃は、お釈迦様が説かれた「人生は苦である」という真理を苦しみの海にたとえられたものです。

「悟りの岸が見えないほど深く広い苦海に生きかわり死にかわり沈む私を、阿弥陀様のお慈悲の船だけが必ず救ってください。安心してお任せしなさい」との尊いお心です。

私は昨年、七十七歳の喜寿にして得度をさせていただきました。

心音を聞きながら安心してお乳をいただくのと同様に、「南無阿弥陀仏」のお名号も如来様の「わが名を呼べよ、抱いているぞ」という親心、すなわち「親のよび声」なのです。

「なぜその歳で？」と思われるかもしれませんが。私は長い間、阿弥陀様のお慈悲の船から逃げ回り、帰る処を見失っていました。しかし、風のように届いた親鸞聖人のみ教えによつて、実はすでに阿弥陀様の懷に抱かれていたのだと気づかせていただいたのです。この真の喜びを一人でも多くの方に伝えたいと、僧侶の道を歩み始めました。

私は現在、デイサービスの送迎ドライバーをしています。利用者さんは帰りの車中で「やっぱり家がええわ」と口々におっしゃいます。これは私たちが旅行から帰ってきた時も同じではないでしょうか。人は帰る処があり、待つてくれる人がいるからこそ安心して生きていきます。生まれたばかりの赤子が母の腕に抱かれ、その

かつての私の家は貧しく、父は事業の失敗を重ね借金取りから逃れ、産婆であつた母は心の拠り所を求めて新興宗教や自力のお寺にすがっていました。母はついに阿弥陀如来の本願に出遇うことなく亡くなりましたが、私も無宗教のまま長らく勤めていた警察を定年退職。そんな折、何気なく読み始めた新聞小説「親鸞」に惹かれ、知人の勧めで本山のお晨朝（朝七時のお勤め）に通うようになりました。

その説教は、宗教に幻滅していた私の胸に深く染み入りました。聖人の「遠く宿縁を慶べ」というお言葉に触れ、母もまた私を真実へ導くための菩薩であつたのではないかと思えるようになりました。今はただ「全ては如来様のお手回しの中であつた」と喜ばせていた

だいております。

春には鶯が「法を聞けよ（ホーホケキョ）」と鳴き、夏には蟬が「爺（ジ）爺（ジ）、頑張れよ」と呼びかけてくれているようです。

なんまんだぶつ なんまんだぶつ

三重県第四組
善休寺衆徒 中元誠実



元警察官の中元さんはプロの演歌歌手です。カラオケでも歌えますのでぜひ!! ※髪型はウィッグとのことでした。

浄土真宗なんでもQ&A

浄土真宗の仏事や習わし

どうして伝統的なお寺さんのつくりは
段差だらけなのでしょう

＝ 真宗寺院のつくりを通して寺院の意味を考える ＝

真宗寺院の多くはバリアフリーの
時代に反する建造物です。

現代では新しい本堂建築でバリア
フリーになっている寺院もあります
が、多くの寺院は反バリアフリーで
段差だらけです。

実はそこに大切な意味があります。
まず、真宗寺院は宗祖親鸞聖人か
らお伝えいただく往生浄土の道を聞
く念佛道場であることが根本となり
ます。その上で特徴的なつくりとし
て、

・入母屋造りを中心とした本堂の大
屋根は、他の集落の人々が御聴聞に
訪れられたときには「あそこにお寺
がある」と、昔から地図やナビゲー
ションの役割を果たします。

・本堂の向拝のせり出た屋根は、
梅雨時の雨や、雪国の大雪から檀信
徒様を護るためのものです。

・高く風が通る床下は天然のクー
ラーです。暑さや湿気をやわらげ、

檀信徒様を快適な御聴聞の座に導き
ます。

何もかもが計算しつくされた建造
物であります。

高田本山御影堂では、高座の
布教使の説教の音が、マイクが無く
ても、横長の広い外陣（大間・下
陣）の隅々まで聞こえるつくりにな
っているそうです。350年以上
前の建築技術に驚きしかありません。



外陣（大間）の様子

また、真宗寺院の堂内の誇るベ
き特徴として、一段高い内陣に對
して、外陣が他宗の寺院に比べて、
圧倒的に広いことがあります。内陣
は莊嚴・儀式の場であり、外陣は御
聴聞の場です。一人でも多くの檀信
徒様がそこにお座りいただき、佛法
を御聴聞していただくための場所
です。

親鸞聖人の浄土和讃三十三首目に

「七寶講堂道場樹

方便化身ノ浄土ナリ

十方来生キワモナシ

講堂道場禮スベシ」

とあります。「道場」の左訓には
「ナラウケ（習う家）」と聖人がお
示しくださっております。

真宗寺院はお念佛を習う道場なの
です。

今、新しいつくりの本堂も続々と
建立されています。現代社会に
見合った考え抜かれた建物です。そ
の中で、伝統的な真宗寺院のつくり
をご覧になっていただくと、それぞ
れの寺院創建当時の段差の意味が理
解出来ると同時に、真宗寺院の本堂
の意味もお考えいただけるのではな
いかと思います。

（教学院第三部会）

伝統を引き継ぐ職人舎

一層築舎

Sochikusya Co., Ltd

伝統的な社寺建築、古民家や一般住宅・店舗の修繕、リフォーム、
リノベーションなど、自然素材を活かした壁や空間を提案します。

左官工事 / 建築工事 / 外構工事

〒510-0031 三重県四日市市浜一色町 16-35

TEL 059-332-1444 FAX 059-344-2627

E-mail : souchikusya@gmail.com URL : https://tutikabe.net/

法衣・仏具製造及び販売



井筒法衣店



オンラインショップはこちらから →

「燈炬殿だより」

「専修寺―寺宝からみる公家文化」

＝ 開催のお知らせ ＝

親鸞聖人の教えを受け継いだ門弟たちから始まった真宗高田派本山専修寺には親鸞聖人の御直筆をはじめ、数多くの法宝物が納められ、教学や真宗史に関する多くの研究がなされています。

第十二世堯慧上人は、飛鳥井家から入寺されました。天文四（一五三五）年のことです。以来、皇室や公家から多くの上人をお迎えし、それとともに、専修寺には、皇室や公家の雅を感じさせる数多くの優れた美術・工芸品が集まり、専修寺の御蔵で保存されてきました。

その一部、有栖川宮家より入寺された第十八世円遵上人が御使用の茶道具類については、令和六年夏開催の特別展観「学山高田の文化」で展示いたしました。

しかし、御蔵には、皇室や公家ゆかりの品々が数多く伝えられて

いるものの、その全貌はまだまだ明らかになっておりません。

数年前、法主殿は、母校である学習院大学に調査の協力を仰がれ、予備調査が行われました。その結果、ごく一部の調査だけでも予想を上回る貴重な資料が見つかり、全貌を明らかにするための本格的な調査が必要であることが明らかとなりました。

学習院大学では、この結果を重く受け止められ、皿井舞教授が研究代表者となって科学研究費（基盤研究(a)「門跡寺院における文化



桐鳳凰時絵書棚

の受容と創造、及びその波及に関する総合的研究」を申請されたところ、みごと採択に至り、令和七年度から令和十一年度の五年間にわたる御蔵の悉皆調査が始まりました。法嗣殿も学習院大学大学院の研究員として参画され、資料の所在確認や調査の円滑な進行に重要な役割を担われています。

今年の春、これまでの調査の結果が学習院大学霞会館ミュージアムにおいて「伊勢の名刹 専修寺―寺宝からみる公家文化」というタイトルで展示公開されました。

期間中、法嗣殿は、ほぼ毎日会場において、来館者に展示解説をされました。そのご尽力もあってか、五月二十二日から六月十三日の会期中五千五百三十九名の観覧者があり、さらに、NHKの日曜美術館での紹介や、美術関係の雑誌、インターネットでの報道など大きな反響がありました。

専修寺からも、バス一台を貸し切って展覧会見学の職員旅行が行われ、職員一同も、法嗣殿の解説を聞きながら拝見、御蔵の品々の


えねじないが
～いい旅いい発見～
毎週月曜日 よる7時
(毎週土曜日 ひる12時再放送)
TVで見逃し配信！
三重テレビ放送


高田本山御用達
三重県仏教会御推薦
石碑
記念
燈籠
高級御影石専門店
御影石材株式会社
(石に御用の方は) イシニゴヨロ
☎0120-142540
本店 津市広明町(影見寺門前)
☎059-224-1700(代)

価値を改めて認識する良い機会となりました。

今年の秋には、調査の成果を地元一身田でもご覧いただけるよう、学習院での展示に追加の品々を加えた展覧会「専修寺―寺宝からみる公家文化」を燈炬殿にて開催いたします（十月十六日～十二月十三日）。

専修寺に受け継がれてきた雅の伝統、その根底にあるのは、何よりも親鸞聖人のみ教えです。そのみ教えを尊ぶご縁によって、皇室や公家の方々も歴代の法主としてお迎えし、専修寺ならではの雅の文化が育まれてきました。そのことを象徴するため、御対面所の阿弥陀さまにも学習院大学までお出まし願ひ、皆様に伴して頂きました。今回の展示でも阿弥陀さまを、普



阿弥陀如来立像
(御対面所本尊) 慶俊作

段は一般の方が入りにくい御対面所から燈炬殿にお招きいたします。ぜひこの機会に燈炬殿にお越しいただき、専修寺に受け継がれて

きた雅に触れるとともに、阿弥陀さまのお姿を間近に拝し、私たち一人ひとりに向けられたその御心に思いを馳せていただければ幸いです。

照らし来る

弥陀のまなざし

凡愚にも

専修寺宝物館「燈炬殿」

館長 大野照文

宝物館 受付場所変更のお知らせ

令和8年10月16日より、宝物館観覧受付の場所を下記の通り変更させていただくこととなりました。

- 新受付場所：宝物館受付カウンター
- チケット販売場所：宝物館および総合案内所
- 変更開始日：令和8年10月16日（次回企画展）より

真宗高田派本山専修寺宝物館燈炬殿

観覧料チケット：一般 1,000(900)円 中高生 500(400)円
小学生以下無料

※ () 内は 10 名以上の団体料金

※ チケットは当日のみ有効

休館日：月曜日（祝日の場合は翌平日）

※ 法要期間中は開館予定

VR シアター上映時間：10:00/10:30/11:00/11:30/
13:00/13:30/14:00/14:30/15:00

※ 予約優先制（WEB またはお電話でご予約ください）

※ 予約枠に空きがあればご予約がなくても入館していただけます

【お問い合わせ】

ご不明点および、宝物館観覧予約・団体参拝予約

真宗高田派本山専修寺 総合案内所

TEL 059-232-7234 FAX 059-232-6112

WEB 予約は専修寺ホームページより可能です



宝物館 HP

人口減少社会へ突入した地域に必要なのは「お寺」だと思う。

お寺から生まれる情報発信や
コミュニティをサポート！

三重に暮らす・旅する WEB マガジン

OTONAMIE

otonamie | 14,500フォロワー突破！
mail otonamie@gmail.com
tel 059-268-3538 (善印刷工業株式会社)



お寺の実績
紹介記事

お寺とともに
地域をつくる。

永田文昌堂

往生論註詳解

宇野 恵教著

定価15,400円(税込)

『論註』テキストを一頁三段で構成した《資料篇》と、『論註』本文を百十の小文に分け、現代語訳、筆者の研究・理解・問題提起などを挙げている《本文篇》の二冊本。《本文篇》では歴史篇として、羅什三蔵の訳経から曇鸞大師示寂までの仏教および浄土教の発展も概観する。

京都市下京区花屋町通西洞院西入 ■ TEL 075-371-6651 ■ FAX 075-351-9031

讃阿弥陀仏偈和讃講義

— 恭敬をいたし歌嘆す —

井上 見淳著

定価7,150円(税込)

本書は高田派専修寺蔵国宝本を底本に、【総説篇】で和讃を講じるにあたって成り立ちや書誌情報について概説し、【講讃篇】で「讃阿弥陀仏偈和讃」四十八首の本文と、巻末附録にて文明本の冠頭讃二首について解説する。

第五十六回 お七夜献書展 作品募集

左記の課題で第五十六回お七夜献書展の作品を募集しています。
詳細は高田本山HPを参照、もしくは宗務院までお尋ねください。

令和八年九月

主催 真宗高田派宗務院 (☎059・232・4171)
後援 中日新聞社・一身田商工振興会・高田会館

第五十六回お七夜献書展課題 作例

はす

幼児

みだ

小1

心光

小2

大悲

小3

清浄土

小4

真実信心

小5

報恩謝徳

小6

観世音大勢至

中2

自信教人信

中1

不可思議功德

中3

西方不可思議尊
超発殊勝本弘誓
法蔵菩薩因位中
建立無上大悲願

高田太郎

恩愛はなはだちがたく 生死はなはだつきがたし
念佛三昧行じてぞ 罪障を滅し度脱せし

高田太郎

高校・一般

世界中の多くの方々と仏縁を結ぶために、高田本山ではYouTube「専修寺チャンネル」をはじめ様々なデジタル技術を活用しています。国宝彫刻群などを動画などで紹介する「高田本山デジタルブック」もご紹介しますので、どうぞアクセスください。



どこでもつながる国宝彫刻群

高田本山 デジタルブック

検索



<http://www.senjutsu.or.jp/nihonhaku/digitalbook/index.html?pNo=1>

法会・行事案内

- 讃佛会 九月二十日～二十六日
- 第七十九回檀信徒研修会 十月十五日
- 第三十一回教学院研究発表大会 十月三十日
- 納骨堂法会 十一月三日～四日
- 秋法会 十一月五日～十日
- 資堂講法会 十一月八日～十日

寺院名